

# 令和元年度 沼津市埋蔵文化財発掘調査報告会

## 資料

- 報告1 中原遺跡 p 1～4  
報告2 西通遺跡 p 5～8

令和2年2月13日（木）  
沼津市文化財センター

## 西通遺跡の発掘調査成果

文化振興課文化財調査係 小崎 晋

### 1 遺跡の概要

- ①遺跡名 西通遺跡
- ②所在地 沼津市小諏訪地内
- ③調査面積 約1,000m<sup>2</sup>
- ④主な時代及び遺構
  - ・古代（奈良・平安時代）
    - ：住居址、小穴
  - ・弥生時代中期：方形周溝墓
  - ・その他 古墳時代前期（大塚式土器）  
平安時代末（灰軸陶器）
- ⑤現地調査期間
  - 平成30年6月～11月
  - 令和元年11月（未調査部分のみ実施）



図1 西通遺跡の位置

### 2 古代（奈良・平安時代）

#### 1) 検出した遺構 住居址32軒

調査区は砂利混じりの固く締まった粘性土で覆われていたため、遺構検出の作業が難航しましたが、最終的に32軒におよぶ住居址が重複する状態で検出されました。いずれもカマドを有するもので、平面の形状は方形を呈するものです。住居址の特徴や出土した土器などから古代の住居址であることがわかりました。

なお、この時期の集落遺跡では掘立柱建物跡（倉庫）が住居址とともに検出されることが大半です。しかしながら、今回の調査区では明確な掘立柱建物跡は確認されませんでした。調査区の外側では、今回の調査とは別に試掘調査を実施していますが、西側の隣接地などで遺構らしき痕跡や遺物が確認されています。掘立柱建物跡は調査区外に分布している可能性があります。

#### 2) 出土した遺物 土器、金属製品、石製品（砥石）

検出された遺構の大半が住居址であることから、出土した遺物は土師器・須恵器といった日常生活に用いる土器が大半です。30軒以上の住居址が検出されたことから、遺物量は遺



図2 古代の住居址の検出状況

物の収納ケースで 100 箱近くに及びます。なお出土した土器では土師器の甕が多く出土しています。なお、絶対的な量は少ないものの、砥石や鉄製の刀子が出土しています。

また、調査区の中央付近で検出した第 6 号住居址内及びその付近では多量の軽石が出土しました。中にはかなりの大型の軽石もありました。これらはどこで採取されたものかは不明です。そして、これらの軽石の中には、楕円状やラグビーボール形に加工し、その中央付近に穿孔（穴を開ける）しようとしたものが多数確認できました。これらは特徴から漁撈の際の網に用いた「浮き」である可能性があります。詳細は今後に予定している報告書作成のための整理作業で明らかになると思われます。



写真1 古代住居址検出状況



写真2 住居址カマドと出土した土器



写真3 砥石出土状況



写真4 軽石出土状況

### 3 弥生時代

#### 1) 検出した遺構 方形周溝墓 9基

今回の調査で弥生時代の墓である方形周溝墓（HD）が9基検出されました。いずれにおいても溝の四隅が切れ、一周しないタイプであることから、弥生時代中期のものだと判断されます。

小諏訪周辺では初の検出事例であり、また市内の弥生時代の遺跡で、方形周溝墓が確認された中では最も多い検出事例となりました。

#### 2) 西通遺跡の方形周溝墓（HD）の特徴

##### ①規模（※周溝外側からの幅で）

HD 1・2 一辺約 10m

HD 3～9 一辺約 4.5～6.5m

一辺が10m以下と、いずれも小型の方形周溝墓に限られています。ただし、調査区南側で見つかったHD 1を除いた全てが古代の住居址の下で検出されたため、上部を大幅に削平されていると思われ、実際の規模はもう少し大きかったものと考えられます。

##### ②主体部

楕円形に近い不整形の土坑がいずれの墳丘部分においても確認できたことから、これらが墓の主体部（埋葬した箇所）だと想定されます。ただし、人骨や棺の痕跡、副葬品などは一切出土していません。

##### ③遺物

HD 1の北側と西側の周溝内で土器が出土しました。いずれも弥生時代中期中葉の壺型土器です。また、西側周溝内から出土したものは土器の底部に穿孔したものがありました。方形周溝墓にお供えをした際の土器と判断されます。

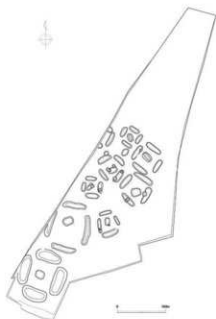


図3 方形周溝墓の検出状況



写真5 方形周溝群墓検出状況



写真6 第1号方形周溝北側周溝内土器出土状況

#### 4 弥生時代における西通遺跡と周辺の遺跡

##### 1) 弥生時代の住居址が見つからないのはなぜ？

西通遺跡における弥生時代の遺構は方形周溝墓のみで、住居址などの遺構は確認されませんでした。このことは今回の調査箇所にはヒトが直接居住していなかったことを意味しています。そして、今回確認された方形周溝墓群は、近隣に存在すると思われる集落の墓域と考えられます。

##### 2) 近隣の遺跡

西通遺跡の西北西約 200mの位置に同時期の遺跡である「軒通遺跡」が存在します。この遺跡では、昭和 20 年代に土砂採集に伴って土器が出土しています。十数個の完形の壺型土器が出土したと報告されていますが、今は 3 個体が現存しています。このような完形の土器は方形周溝墓の存在を示唆しており、明確な方形周溝墓は確認されていないものの、西通遺跡と同様な遺跡であった可能性があります。

##### 3) 西通遺跡や軒通遺跡は西通北遺跡の墓域か？

西通遺跡の北西約 200mに「西通北遺跡」が存在します。この遺跡では幅が最大で 4.5mに及ぶような大型の溝状遺構が弧状に続く状況が確認されており、この溝の中からは弥生時代中期の土器が出土しています。この溝の特徴から西通北遺跡は環濠集落であるとする研究者もいます。この大型の溝が集落を囲う環濠かそうでないかは別として、このような溝の掘削には相当の労働力を要したことが容易に想像できます。

西通遺跡が西通北遺跡の墓域（墓を集中して造る箇所）であるかどうかは判然としません。西通北遺跡の周辺に衛星的に存在する小規模集落の墓域である可能性もあります。いずれも場合でも、軒通遺跡も同様の遺跡と考えることができます。

西通遺跡は何らかの形で西通北遺跡と関連を有した遺跡であることは間違いありませんが、遺跡の全容解明には今後、更なる資料の増加が待たれます。

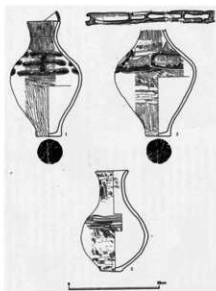


図4 軒通遺跡出土弥生土器実測図  
(沼津市史資料編1考古)



図5 西通遺跡と西通北遺跡、軒通遺跡  
の位置関係

## 中原遺跡の発掘調査成果

文化振興課文化財調査係 小林晃太郎

### 1 はじめに

中原遺跡は沼津市原一本松に所在します。鉄道高架事業に伴う、新貨物駅建設に先立って埋蔵文化財発掘調査を実施（平成 20～22、平成 28～現在）し、現在約 30,000m<sup>2</sup> が調査済みとなっています。

中原遺跡が位置する千本砂礫洲は、数千年前まではまだ海で、人々が生活できるような土地ではありませんでした。約 6000 年前の縄文時代には海面が上昇し、愛鷹山麓付近にまで達しました（縄文海進）。その後海退が進み、およそ 2,000 年前（弥生時代中頃）までに、人々が生活するのに安定した地形になったとされています。沼津市西部地区において、弥生時代の遺跡は雌鹿塚遺跡（現在の静岡県狩野川西部浄化センター）など、やや内陸にしかこれまで見つかっていませんでしたが、今回新たに、中原遺跡で弥生時代中期の遺構が発見されました。千本砂礫洲上には古墳時代（3～7 世紀）に入ると、神明塚古墳や松長古墳群などの古墳が築かれるようになり、6 世紀後半には集落も広がりはじめます。中原遺跡も今までの調査でこの時代に該当する集落跡であると認知されていることから、弥生時代から奈良・平安時代まで断続的に続いた大集落であることが判明しました。



図1 中原遺跡位置図

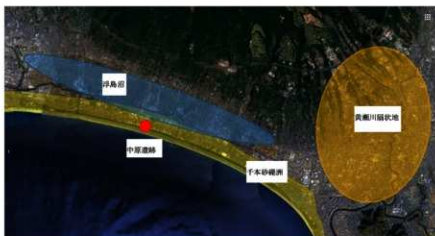


図2 中原遺跡位置図

## 2 調査成果

### 古代

平成 20 年度から（現地調査は一時中断）の本調査の結果、おもに古墳時代後期から平安時代にかけての大規模な集落遺跡であることがわかりました。

#### ・ 竪穴住居址

中原遺跡で発見された竪穴建物址の平面形は方形を呈し、一辺約 8m のものから、4m 弱のものまで様々な規模の竪穴建物址が確認されています。そして調査した竪穴建物址の大半から竈（カマド）が確認されました。竈は粘土で作られており、主に北壁面や西壁面に作られる傾向にあるようです。しかし数軒ではありますが、東壁面に竈を作る住居址も確認されています。



#### ・ 掘立柱建物址

確認された数は竪穴住居址ほどではないですが、柱の跡が綺麗に並ぶ掘立柱建物址も発見されています。調査区によって掘立柱建物址の軒数に偏りがある点や、竪穴建物址を壊して作られているものもある点から、集落内の建物配置が集落の動態に合わせて変化していると推測できます。



写真 1 平成 30 年度調査区全景（12 区）



↑

←写真 2・3 竪穴住居址（ともに 10 区）  
右写真は複数軒が重複関係（重なり合っている）にある住居址



写真 4 掘立柱建物跡（B 区）

### ・出土した遺物

中原遺跡で発見された遺構からはたくさんの遺物も出土しています。土師器や須恵器が大半を占めており、坏や甕、鍋が多く出土しました。それらの器形はおよそ7世紀後半～9世紀初頭に特徴的なものがほとんどで、集落もその期間に属するものと考えられます。また土器・石器以外にもガラス小玉製造用の鋳型・重さを量るための分銅・通常古墳から出土することが多い耳環（耳飾り）・ガラス小玉などの玉類などが出土しています。また古代東海道に関連するとも考えられる遺跡で、当該地域の中心的な集落であったと想定されます。



写真5 出土土器一括資料そ



写真7 ガラス小玉と鋳型



写真6 出土土器一括資料その2

## 弥生時代

平成29年度の調査では、弥生時代の墓制の一つである方形周溝墓が3基確認されました。このうち1基は市内最大のもので、静岡県内で確認されている中でも2番目の規模となります。調査区（10区）の南東側で検出されました。

・形状 平面は方形を呈し、四方を溝で囲む形状をしています。中原遺跡で発見された3基はいずれも周溝の4隅が切れて一周しない形状をしています。



写真8 第1号方形周溝墓 全景（南東より）



・時期 弥生時代中期後葉

※それぞれ3基の方形周溝墓の周溝内から出土したほぼ完形の壺形土器がいずれも弥生時代中期後葉の範疇におさまるものであることから、方形周溝墓の時期を示していると判断されます。

また、3基の方形周溝墓について、規模に違いがあるものの、同一の平面形状であり周溝内に溜まった土(砂)の堆積状況がほぼ同じであることから、いずれも同時期のものと判断されます。



写真9 HD1 壺形土器出土状況

・特徴 【第1号方形周溝墓 (HD1)】

調査区内で全体が検出され、全体形状の把握が可能。

墳丘規模は約15×15m、周溝外側で最大幅約26mとなる。深さは墳丘部より2.0m。

【第2号方形周溝墓 (HD2)】

HD1の南東側に位置。南側半分は調査区外。

墳丘規模は約9×9m、周溝外側で最大幅約18m。周溝の深さは墳丘部より1.5m。

【第3号方形周溝墓 (HD3)】

HD2の南東側に位置。南側半分は調査区外。

墳丘規模は約9×9m、周溝外側で最大幅約16m。

周溝の深さは墳丘部より1.5m。



写真10 方形周溝墓 全景



写真11 HD2 東周溝内出土土器



写真12 HD3 北周溝内出土土器

沼津市文化振興課公式FB  
～ぬまづの文化～

